

みんなの夢をクリエート サンサンさわやか 文協田原

たはら文化

vol.
148
2026 1.20
(令和8年)

● 田原市文化協会ホームページ <https://taharabunka.com>

未来に残そう
田原市の美しい風景



Photo by 樽原 和志

田原市文化祭—渥美会場—

芸能

天候に恵まれた十一月一日(土)・二日(日)の両日、渥美文化会館に於いて文化祭が開催されました。芸能発表会では文化協会に所属するカラオケを始め十部会の会員の方と一般より参加された八名の方による舞台となりました。

舞台では一人一人誰もが主役です。

しなやかに柔らかに伝わってくるフラの風に、身も心もまったりし、幼少年の子らが踊るフラダンスには「可愛い！可愛い！」と拍手喝采！熱唱、熱唱と続く歌声にいつしか共に口ずさんだり聴き入ったり、カラオケパワーは未だ健在！と感じた。また、チームワークの良さを感じさせた見事なハーモニーの混声合唱、爽やかな歌声が心地よく会場を静かに包み込み、「日々是精進」と練習を積んでこられたであろう箏曲の方達の弦に落とす視線はどなたも輝いて見えた。剣武「黒田の武士」その槍の力強さと作品のもつ品の良さがその人の成りと重なり見えて我が胸を熱くした。

温かい拍手を送って下さった観客の皆様ありがとうございました。



展覧

郷土資料館では、渥美窯陶友会による、陶芸が並んでいて、コーヒーカップの器なども販売していました。隣の建物には、書道や菊友会による菊の展示。今年も猛暑で水かけには、苦労されたと聞いています。農村環境改善センターでは、市民茶会が開かれていました。

抹茶とお饅頭を頂き、多目的ホールへ、そこでは短歌や俳句が渥美俳句会にとっては、将来有望な児童達のすばらしい作品の数々でした。奥には大きな台が三個。一つには、ドライフラワーを使った置物や壁掛け、二つのテーブルには、赤い毛氈が敷いてあり、ちりめん布で縫ったり布を摘んで作ったりつまみ細工、干支の十二支など、和室では、夢中になつて作つたであろうエコクラフトの籠、二階では華道、写真展、絵画、手作り大好きクラブなど皆さんの作品が展示されました。(真野 かず子)



田原市文化祭―田原会場―

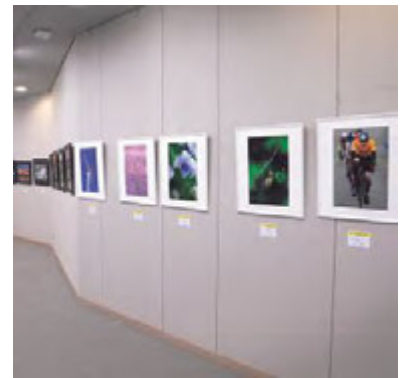
芸能

おだやかな秋日よりの中の文化祭は多くの方々が会場に足を運んで下さいました。

開演前の出演者の方にお会いすると緊張感が伺えましたが舞台上に立つと変。ドキドキした気持ちを抑え今迄の練習の成果を力一杯披露されていました。それに比べ会場から大きな拍手。ペンライトで応援されていました。その瞬で今迄続けてきて良かった。また次の発表会に向け頑張ろうと思えたのではないのでしょうか。参加者の方に「素敵な自分に合った趣味に出会え、続けられ良かったですね」と声をかけたいです。年齢、ジャンルも様々で曲に合った装い舞台衣装でも楽しませてくれました。長時間の発表会もあつという間に過ぎて行きました。

生き生きとした姿に会いに、皆さんも是非会場に見に来てみませんか。

(天野 知代)



展覧

令和七年度「田原市文化祭」が十月三十一日(金)～十一月二日(日)田原会場で行われました。写真展、陶芸展、さつき展、盆栽展、華道展など、それぞれの愛好会により、みんなで準備をし協力して、立派に盛り上げることが出来ました。こうした場所がある事で、日頃の自分への成果を発揮することが出来嬉しく思います。又、お互いにいろいろな展示の場を見学することが、趣味を広げるきっかけと場所だと思っています。この様な、楽しい行事がいつまでも続くよう皆さんと協力していけるといいと思います。

習い事に興味を持つきっかけとなったのは「母が楽しくやっている所を見て始めた。」「花が、好きだから。」「友達に誘われたから始めた。」などでした。展示をしたことで、日頃の生活で、まわりに目を向けて関心を持つことが出来、次への展示へのステップにつながっていると思います。

(大羽 英子)



田原市文化祭—市民参加—

市民参加の文化祭には、多くの方の作品が展示され、会場を彩って下さいました。
工芸、スケッチ、俳句、フラワーアレンジメント、手芸等、どれも丹精こめて作られた作品で観る人が嬉しくなるものばかりで、作品に幸せ感がいっぱいでした。



市民茶会

渥美会場

お天気にめぐまれ、爽やかなお茶会日よりとなりました。

扇面の立札とお道具の取り合わせ、茶席の設営はいつもながら大変です。今年はお点前席後ろの垣根に秋のりんどう、秋明菊、小菊などをあしらひ、飾り付けをしました。

お客様には和菓子の柿とお抹茶をゆつくり味わっていただけたいと思います。会員の減少、高齢化で部外からの協力なしではお茶会はできません。

今回も地元の方、役員の方にご協力いただき無事終える事ができました。ありがとうございました。
(大谷)



田原会場



茶道をはじめて二十二年が経ちました。そんな年に市民茶会の席でおもてなしさせて頂いたことが出来て嬉しく思います。小さな頃から私の日常だったお稽古も歳を重ねるにつれて違った視線で学ぶようになりました。茶道の所作は、覚えるのではなく、身につくものだと感じます。今後毎日々精進し、成長していきたいと思っています。そして、多くの人に、日本文化のすばらしさを感じていただき、今後後世に受け継いでいけるとよいなと思っています。茶会へ足を運んで下さったみなさまありがとうございます。

(木村 綾華)

研修視察

掛川花鳥園

牧之原市資料館

大鐘家

掛川花鳥園ではバードショーを楽しんだ。ハリスホーク（鷹）のひろぎ君が飼育員のお姉さんの手の上の餌をかすめ取る技はスリル満点。ヒメコンドルの低空飛行に思わず首をすくめてしまった。園内の様々な花に心和ませながら進むと、奥に嘴広鶴が鎮座していた。やはりじつとして「あつ、動いたー」いや、我々の声に驚いたのかも？

バスは、田沼意次ゆかりの街「牧之原市資料館」へ

相良藩藩主意次が民のために尽くした様々な業績が紹介されていた。その中で興味をそられたものの一つが『南鐐二朱銀』意次は全国的に貨幣を共通化し、改革することにより経済を活性化させたとの説明があった。社会科の学習では「意次＝賄賂政治」と言うイメージがついてまわっていたが、政権を維持していくための一断面であったのかもしれない。学芸員から「皆さん、この二朱銀、触ってもいいですよ」と言われ、皆が手に取った。この二朱銀を、あの大河ドラマ意次役渡辺謙も手に取ったと言う感慨に浸ったのは私だけではない。

街道の整備も意次の功績の一つ。今でも「田沼街道」と呼ばれ人々に利用されている。大鐘家はその街道沿いにあった。江戸中期大庄屋である国重要文化財長屋門を潜り屋敷へ。二本の太い大黒柱が梁や屋根を支えている。主屋内部奥には大きなかまどが据えられていた。大勢の使用人の煮炊きをしたのだらう。当家の暮らしの程を彷彿とさせた。半夏生の繁茂するお屋敷の裏山を登った。目の前には駿河湾が広がり、彼方に富士山が霞む。売店では百葉茶のサービスがあり、我々の乾いた喉を潤した。帰りのバスでは長崎堂のカステラがお茶請けに振る舞われた。ついでに注文もできるというシステムだ。おかげで土産選びに悩むことがなかった。六月二十五日、初夏の一日、こうして研修バスの旅を終えたのである。

追記 九月五日台風十五号に伴う竜巻等災害で甚大な被害に遭われた牧之原市の方々には心よりお見舞いを申し上げます。

（杉浦さとり）



東三河部芸能大会に参加して

令和七年七月六日、豊川市文化会館に於いて、県文化協会連合会五十周年記念の芸能大会が盛大に開催されました。

各文化協会所属団体の発表種目は、コーラス、大正琴に箏曲、吹奏楽を始め、民踊、群読、そして我が渥美昭武館の剣詩舞有りと多種に渡り、舞台を華やかに、観て！聴いて！と楽しめる内容だったのではないかと感じました。今回、剣武を披露した塙君の演舞を観て「初めて剣武を観た。凄い！凄い！」といたく感動して下さった事を大変嬉しく思いました。「何か」を伝えることが出来、感じる事が出来た！：地域性有り、年令も様々な会員の方々が日々研鑽し、意気揚々と発表出来た、熱い熱い一日でした。

（渡会 健美）



俳句と短歌で巡る、田原市内の名所

11

日出の石門

日出の石門は、恋路ヶ浜、伊良湖岬灯台と並び渥美

半島伊良湖岬の景勝地のひとつとなっている。

石門の洞穴は、断層によって破碎され、もろくなった部分が長い間に波の力で浸食されたもので「海食洞」と言う。海上の岩を「沖の石門」、海岸線の岩を「岸の石門」と呼びどちらも海食洞である。かつては「沖の石門」も陸続きであったといわれる。緻密で固いチャートという堆積岩がうねるように褶曲している岩肌、その褶曲を断ち切った険しい断層から、何億年前、さまざまの変動があったことを物語っている。

渥美俳句会は十月二十三日「日出の石門」を吟行した。

【渥美半島郷土理解のための三十二章（福江高等学校）参考】



いづみ短歌会

石門に友らと遊びし沓き日の写真懐かしセピア色して
船かげの鷗飛び立ちはるばると磯の大岩羽根を休めん
鷹渡りタンカー航路往来す見送る石門太古の鎮もり
師の横に石門背にしてポーズとる十五の吾の淡き想ひ出
石門に昇る初日を撮る夫に従ひ行きて良き年願ひし
潮騒に日出の石門荒磯に潮満ち波のしぶき上がりぬ
ウェディングドレスなびかせ遊歩道日出の石門へ記念撮影
沓き日に友と歩みし伊良湖崎思ひ出残る日出の石門
石門を眼下に眺め登り切るカーブの先の海はさらめく
古来より風光明媚な伊良湖崎日出の石門荒波寄する
石門をくぐり打ち寄す荒き波太平洋は果てまで青し

伊坂八千代
鈴木かく子
福井 礼子
山本 信子
木村 冨子
高瀬ソル子
斉藤 昌子
太田 恵子
河合 京子
中川 公子
彦坂 靖子



渥美俳句会

秋の潮渚に拾ふ伊良湖白
「鷹かしら」「いやあれば鳶」いい天気
恋路ヶ浜空を余せず鰯雲
石門の小径に群るる浜薊
草深き日出の浜径海桐の実
波打ち際はだしの新婦裾を引く
断層の縞折れ曲がり秋岬
神島につづく陽の道秋の海
天高し海風抜ける海食洞
石門を語り部と行く秋日和
動かざる日出の石門秋の暮れ
蔓荊の這ふ花碧紫浜の秋

郁 夫
克 代
ひろ子
えり子
明 子
幸 代
さとり
元 子
鬼 笑
恵美子
美代子
志げ子

十年前、初めてコンパクトデジタルカメラを購入し、ベトナムのハノイに旅行をしたのをきっかけに、この美しい風景や街並みを、どう写したら素晴らしい表現が出来るか考えるようになり、本格的に写真の勉強を始めました。

写真の面白さは、光の加減等の自然現象など、肉眼では流れてしまう瞬間の風景を永遠に残せることに魅了されています。また良い瞬間を撮るために、時間帯、気象条件などを予測するのも楽しい時間です。写真は同じ場所でも撮る人の視点で全く違う写真になるのも魅力の一つです。

私にとって写真は生活の一部であり生き甲斐です。写真を続けてきたことで多くの写真仲間ができました。世代や性別を問わず、地域も愛知から全国に広がり、写真をやっていたいなら出会うこともない人達ともインスタグラム等で繋がっています。

写真コンテストでは、中日サロンでは秀位賞、豊橋市民展では特選、T&Dフォトコンテストでは入賞など、その他、数多くの賞をいただきました。

今後の目標は、見た人の記憶に残る温かい一枚を撮ることです。そのためには、自分が楽しみながら撮り続けていきたいです。



坂口美保子



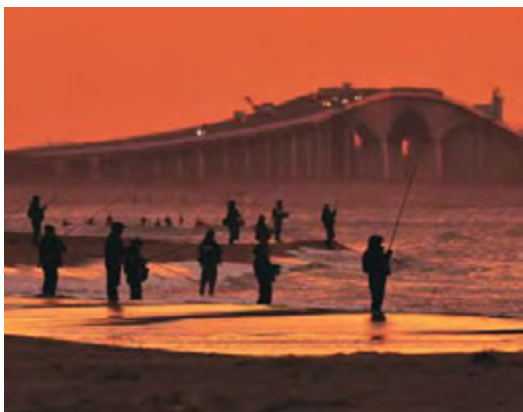
写真が好き！

私が本格的に写真を勉強し始めたのは十年前です。若い時は、レース場でオートバイを走らせていました。その後はスキー大回転で国体を目指すチームに入り、毎週何処かのスキー場で滑っていました。年齢のこともあり何か熱中出来るものはないかと思っていた時、アマチュア無線で知り合った中日写真協会田原支部長に（現在は東三河写真倶楽部）太平洋ロングビーチで撮影した写真を送ったところ、お誉めの言葉をいただきました。その三言で本格的に写真を勉強することになりました。

初めは、人が正面から写真を撮れば私は横から撮るようなへそ曲がりでした。例会で仲間の写真を多く見て、自分の写真を多くの人に見てもらおう。そして人よりも一枚でも多く写真を撮る為に休みの日は色々な所に撮影に出かけました。おかげで今では倶楽部の例会で作品の指導をさせてもらっています。写真のおかげで多くの仲間を得ることができました。写真仲間は不思議な力があります。仕事でどんなに疲れていても例会で仲間の顔を見るとホッとして疲れがとれます。これからも仲間を大事にし、皆が感動してくれる写真を撮りたいと思っています。



榊原和志



催事の報告

歌謡クラブ歌楽会

「歌楽つた祭り」開催して

渡辺 昭美

十二月九日九時二十分よりカラオケ発表会を赤羽根文化会館にて開催した。会員は元より蒲郡市を含め東三河の各市、岡崎、名古屋、岐阜、浜松から歌仲間一四七名が出演し、一六〇曲を披露された。カラオケの他に舞踊、フラダンスの出演もあり、演技の上手さを披露するだけでなく、楽しみながら仲間の「和・輪」を助け、知識、技能の向上を図る事を主目的としている。

カラオケ出演者年齢は三十代以下二名、その他は七〇歳から八五歳の人が多かった。

女性の衣装はドレスが多く、会場に居た男性が「女性はいいな、腰が曲がる歳になっても花嫁衣装が着れる」と言っていた。女装をした男性は大きな声援を受けていた。



向日葵会発表会

発表会 ありがとう

向日葵会 白井 純子

楽しかったね。この言葉を聞きたくて、みんなで頑張りましたね。七年ぶりの発表会を大勢の方々のお力添えのお陰で無事終える事が出来ました。こんなに楽しく元気に舞うことが出来て本当に幸福だなーと思いました。

ご来場のお客様にも沢山の拍手をいただき大きなパワーになりました。私達は踊りが大好きな仲間です。これからも一生懸命練習して皆様に見て頂きたいです。又、それぞれのご家族の皆様に感謝の心を忘れず「舞の道」に精進しましょう。間違えたり、思うように踊れなかったり、反省点はいっぱいあると思います。でもいいんですよ。みんなで心一つに発表会を終えることが出来たのだから。ありがとう。



東三河写真倶楽部 成章高校写真部 合同写真展

十月十八日(火)〜二十四日(祝)まで、田原市文化会館多目的ホールで合同写真展を開催。

成章高校は十九点、写真倶楽部は八十二点を展示。その他、田原市で開催された、オフィシャルカメラマンが撮ったトライアスロン大会と全日本オープン空手選手権大会の写真五十四点も展示。

この写真展は会員が二年間撮りためた中から各自の力作作品を展示し、多くの人に見ていただき、そして仲間の作品を見て勉強する場でもあります。特に、写真教室に参加している中学二年生の作品「階段」は、発想が素晴らしく多くの方からお誉めの言葉をいただきました。

(永井)



渥美窯陶友会

平安時代末期から鎌倉時代前期に、渥美半島では、やきもの生産が盛んで全盛期には日本各地へ製品が運ばれていた。火が消えた渥美古窯の再興を目指し、渥美窯陶友会は、昭和五十二年に常滑市の陶芸家江崎一生さんの指導で、中山町に穴窯を築き、初めの二年間は、土づくり、焼成方法等を学び、以降は会員皆で作品づくりに取り組んでいます。今年で四十八年目を迎えました。

渥美窯作陶展を、令和七年十二月に田原文化会館アトリウムで開催し、展示会場には松の灰が高温で溶けた自然釉(灰被り)、灰釉の緑が美しい茶碗や皿が並び、会員相互の親睦を深めた良い機会でありました。

(大島)



文化協会加

茶道裏千家 茶話の会

お茶を通して「和」の心を楽しむ — 太田 量子

私達は、中藪公子社中に属してましたが、中藪先生のご勇退にともない、茶話の会としてご縁を頂いております。

茶の湯を通して日本の伝統文化を楽しみながら、お茶をいただくひとときは、日々の慌ただしさを忘れ、心を静かに整える力があると思います。

作法を基礎から学びながら、おもてなしの心を大切にしたいとお稽古を行っています。

「和敬静寂(わけいせいじやく)」

和やかに、尊敬し合う、清らかに、静かに。茶道の精神を難しく考えず、日々の暮らしの中で感じてほしいという思いを込めています。

お稽古では、お茶の点て方や道具の扱い方などを、基本からゆつくり練習します。お茶を点てると、心が自然と落ち着き、穏やかな時間が流れます。お稽古を通じて、礼儀作法だけでなく、人を思いやる気持ちや四季を感じる感性を暮らしの中に活かすことができるのが、茶道の魅力でもあります。

笑顔が広がり、心が温まるひとときをご一緒にしませんか。

どなたでも参加できますので、興味ある方はぜひ二度のぞいてみてください。



盟団体紹介

書道部渥美会

花井 和美

私達書道渥美会は、東京に本部があります。「東洋書道芸術学会」の、今は亡き高平泉山先生が渥美支部が源です。

その頃は婦人会活動が盛んでその一環として、始められた書道教室でした。

毎月、会本部から届けられる「方円」誌の、会員名簿に〇印が付いていたり、秀作で作品の写真が載ると喜んだものでした。また、文化祭の他にも、豊橋の札木画廊(今はもう閉められました)での作品展が出来るほど会員も多勢いました。時の流れで独立された先輩の先生方も、一人、また一人と旅立たれ、私達仲間の渥美会も極小の教室です。でも頑張つて続けていけば「田原市文化祭」で発表できます。普段は書いてなくても、文化祭に向けて作品をと、考えるだけでもワクワクします。展示する作業は大変ですけど他の会の方々も助けて下さいます。続けていけば楽しい事もあります。

今は、もう懐かしい高平先生の「棒を折らんようにね」は忘れてはいません。肝には命じております。会員はなかなか増えませんが何れまた書いてみたいと、仲間になって下さる方が現れるでしょう。私達仲間の平均年齢は八十歳。小さな会ですがもう少し頑張ります。身体に気を付けて転ばないよう棒を折らないように。



田原混声合唱団

● 団長 田中 剛

田原混声合唱団は、いまから四十五年前に、惜しくも令和五年三月に亡くなられた森下晴世さんによって結成されました。以来、毎年田原文化会館で演奏会をやっています。

指揮者は森下さんから数えて六人目の尾崎弘明さん、ピアノ演奏は小松里奈子さんです。今回は、十月二十三日(日)、田原文化会館文化ホールで第四十三回定期演奏会を行いました。第二ステージはアカペラで「おお牧場は緑」をはじめ七曲、第二ステージはジュニア合唱教室、第三ステージは豊橋から賛助出演としてお招きしたシジュウカラが三曲、第四ステージは「あの素晴らしい愛をもう一度」はじめ六曲、第五ステージは田原混声合唱団・シジュウカラとの合同合唱「ささやき」を歌いました。

尾崎さんはシジュウカラの指揮者をかねているので今回話がまとまりました。演奏会は尾崎さんの軽妙な語りで、聞いている人も楽しく聞くことが出来たと思います。

合唱団の練習は毎週金曜日、田原文化会館音楽練習室で午後七時十五分から九時十五分まで行っています。

二十代から七十代まで、男性五名、女性十二名。そして指揮者の尾崎さん、ピアノ伴奏の小松さんです。

ポップスからクラシックまで幅広く、楽しく歌いますので興味があったら一度覗いてみてください。

お問い合わせは、田原文化会館内文化協会事務局まで。電話二二一六〇六三



渥美混声合唱団

● 宮川 潔

木曜夜八時、通い慣れた少し暗い駐車場に車を止め、ホールへのロビーに入る。混声が奏でるいつものハーモニーがしっかりと耳に届く。遅れて来た後めたさを感じながらドアを開け、私もその景色の輪に入っていく。

思い起こせば、平成四年に結成された、私達、渥美混声合唱団は、三十四年余り、その歩みを停める事無く、幾多の素晴らしい出会いを重ねて様々な演奏活動をしてきました。

当初より地域に根ざした活動をコンセプトにして来た中、その後も演奏の輪を広げ、遠い所では東大寺大仏殿、愛知万博特設ステージ、又、豊橋に於いても他団体との親交を図りながら、熱いページを増やしてきました。

長きに渡り充実した活動が続けられたのも、指導者森下静子さんのきめ細やかな熱量溢れる御指導が大きな支えになっていることは間違いありません。あのコロナ禍に依って合唱団も多大な影響を受けて来ましたが、これからも各団体共通の悩みである高齢化ともしっかり対峙しながら、楽しい仲間と唱い続けていきたいと願っています。

最後に言添えさせていただきます。

毎週木曜日夜八時から多目的ホールに於いて、練習をしていますので、是非見に来ていただけたら大変嬉しいのです。

団員一同心からウェルカムでお待ちしております。

○北原 ○九〇一九二二六一九七七
○吉田 ○九〇一七三〇四一六六七〇





田原市吹奏楽団

二〇七四年の私たち

・ 団長 笠牟田 一明

「それではみなさん、よい週末を！」練習終了時に私がよく掛ける言葉です。

田原市吹奏楽団は一九七四年（昭和四十九年）に「田原に社会人吹奏楽団を」の思いで私たちの先輩方により結成された、昨年創立五十周年の楽団です。九月の定期演奏会、二月の吹奏楽菜の花コンサートを中心に年十回ほど様々な演奏会を開催しています。普段の活動は毎週土曜日十八時～二十時に田原文化会館音楽練習室で行っています。プロの音楽家の先生方の指導による演奏は高い評価を頂いています。

そんな中、昨今の大きな動きとして注目しているのが「部活動の地域展開」。吹奏楽部が縮小されると吹奏楽人口は確実に減少します。私たちはいち早く対応し、昨年度「田原市吹奏楽団ユースクラス」を開講。現在市内の中学生十五人と一緒に演奏しています。また、土曜日夜には参加できないという声にもお応えし田原中学校、福江中学校の生徒さんを対象に不定期ではありますが「ユースクラスⅡ」「ユースクラス渥美」も今年開講。田原での音楽文化の灯が消えないように今から備えておくことを大事にしています。

昨年結成五十周年を迎えた当楽団、次の五十年つまり結成百年の時この中学生たちはまだ演奏ができる年齢です。その時も同じように毎週土曜日の夜楽器を持って集まり、楽しく演奏し、帰るときには「それではみなさん、よい週末を！」と笑顔で言える、そんな楽団であり続けたいと願っています。

劇団タハラジャ

劇団タハラジャ三十七年

・ 藤田 直秀

一九八八年旗揚げ以来、年一回の公演を活動の中心に、今まで続けてきました。気が付けばもう三十七年になります。毎年お盆前、その年の出し物を決定し稽古に入ります。

稽古場は蔵王山の麓「明治の商家」です。明治時代の建物を移築したもので、当然空調の設備などあるはずもなく、酷暑の中、まずは週三回程。それぞれの仕事を終え、夜八時頃集まります。発声練習等の基礎稽古から「読み合わせ」日を追って「立ち稽古」と稽古は進みます。残り一ヶ月ともなると月曜日から土曜日まで毎晩です。日曜日は朝から舞台のセット作りです。そしてやっと十二月の本番を迎えます。

演劇は総合芸術と言われます。ほとんどの作品は、役者だけでは成立しません。照明、音響、舞台美術等、光の当たらないスタッフの助け無しに上演することはできないのです。演出の無理の注文に応えるため、持っている技術を駆使し、智慧を絞り、時にはその注文以上の答えを出してくれることもしばしばです。

キャスト、スタッフ、お互いに協力し、やっと二本の芝居が出来上がります。

そして本番。それは、大谷翔平がホームで満員のライトスタンドにホームランを打ち込んだ刹那、感じるであろう快感に似ているのかも知れません。ほとんどの場合、勘違いなのですが、ほんのたまに自分の放った台詞が、息を飲み静まりかえった客席に、突き刺さったと感じる瞬間があります。その瞬間のために、三十七年間続けてきたのかもしれない。

そして仕上げ。終演後の片付けを終え「カンパイ」この一杯のビールの旨さも、長年続けてきた理由に他なりません。



頑張る子ども達！

「写真の楽しみ」

成章高校写真部副部長 豊田 悠月

私が高校に入學し、どの部活動に入ろうかと迷っていた時、写真が好きな父が「一緒に撮りに行こう」と誘ってくれたことがきっかけで、私は写真部に入部しました。写真部では毎週火・水曜日に、写真の撮影・編集・印刷を主な活動として行っています。

年度初めには、一年生の歓迎行事として「のんほいパーク」で撮影会を行い、撮影の楽しさを共有するこ



成章高校写真部写真提供

とから新しい一年が始まります。そして、体育大会・球技大会などでは、学校行事の様子を撮影し、後日印刷して校内に掲示しています。

文化祭では、毎年趣向を凝らしたフォトス

ポットを設営し、訪れた人が思い出に残る一枚を撮影できるよう工夫しています。三学期には、「菜の花まつり」に出かけ、豊かな自然をテーマにした撮影にも取り組みます。また、年間を通して、様々な写真展に出展したり、コンテストに応募したりして、自分たちの写真表現を外部に発信しています。

私たち写真部の雰囲気はとても良く、学年が違っても部員同士の仲が良いのが特徴です。顧問の先生方も優しく、一人ひとりの挑戦を応援してくださるので、毎週の部活動が楽しみで仕方がありません。私は特に人物写真が好きで、体育大会や球技大会で友だちを撮影することを毎年楽しみにしています。友だちの笑顔や一生懸命な姿を写真に収めることにとてもやりがいを感じます。そしていつの日か、人の心に響くような風景写真にも挑戦したいです。これからも写真部の仲間たちと一緒に素敵な写真を撮り続けていきたいと思っています。



菁華会

川野 多鳳

私は小学一年生の時、姉と一緒に習字教室に通い始めました。まわりから書く字によって人の印象も変わるとよく言われてきたので、字が綺麗で損わないと思い始め、実際習字を習い続けているおかげで「字が綺麗で読みやすく、いいね」と言われる事が多くなりました。人に誉められる際に、私の頑張りが認められたような気がして嬉しかったです。

今、習字を習い始め七年が経ち中学生になり忙しい毎日ですが続けてきて良かったです。

書道会の昇級試験を受け現在準特待生です。最上級の特待生まであと二歩。大きな壁ですが根気強く頑張っていると思っています。



発行所／田原市文化協会事務局
〒441-3421 田原市田原町汐見5番地
(田原文化会館内) TEL(0531)22-6063
発行人／山本達夫 印刷所／共和印刷㈱

田原市文化協会
ホームページ
<https://taharabunka.com>



田原市文化協会

検索

文協活動メモ

●令和7年度

6月25日 1日研修視察(牧之原市史料館他)
6月29日 ☆ゴールデン☆スター☆発表会
7月6日 県文連東三河芸能大会(豊川)渥美昭武館
7月15日~21日 田原絵画クラブ 絵画展
7月20日 「たはら文化」147号発行
7月20日 恵勢会 ゆかた会
9月7日 田原市吹奏楽団 定期演奏会
10月31日~11月2日 文化祭田原会場

11月1日 市民茶会 池の原会館
11月1日~2日 文化祭渥美会場
11月9日 歌謡クラブ歌楽会 うた祭り
11月11日~24日 渥美窯陶友会 作品展
11月18日~24日 東三河写真倶楽部写真展
11月23日 田原混声合唱団 家庭の日コンサート
11月26日~12月9日 陶芸教室作品展
12月20日~21日 劇団タハラジャ 定期公演
12月21日 向日葵会 発表会